八王子盲学校だより

令和８年１１月発行　第７号

東京都立八王子盲学校長　田島　由紀子



六つの点、六つの光

校長　田島　由紀子

10 月 31 日、本校では文化祭「六光祭」を開催しました。今年のテーマは「想造（そうぞう）」です。ハロウィンで盛り上がるこの日、「八盲でもハロウィンを楽しもう」と、「こわかわ楽しい八盲ハロウィン」をコンセプトに、ステージ発表や作品展示、模擬店、カフェ、マッサージ、遊びのコーナーなど、さまざまな企画が繰り広げられました。

また、移動支援機器や点字絵本・おもちゃの紹介、朗読・お話会など、外部の団体や地域の皆様にも御協力いただきました。多くの方々に支えていただき、六光祭が一層楽しく、豊かな一日となりましたことに、心より感謝申し上げます。

さて、本校では文化祭を「六光祭」と呼んでいます。
盲学校や視覚障害教育では、点字を形づくる六つの点にちなんで、「六つ星」「六星」などの言葉がさまざまなところに用いられています。東京都立文京盲学校の「六ツ星祭」、群馬県立盲学校や山梨県立盲学校の「六星祭」のほか、校歌や校章に「六つ星」や六点を取り入れている学校もあります。
点字は、縦三点、横二列の六つの点の組み合わせによって文字を表します。日本では、東京盲唖学校の教員であった石川倉次が日本語の点字を考案し、1890（明治 23）年 11 月１日に採用されました。このことから、11 月１日は「日本点字制定の日」とされています。

本校の「六光祭」では、この六つの点を六つの「光」と捉え、「愛・信頼・友情・努力・勇気・平和」という意味を込めています。

今年の六光祭を振り返ると、友達と力を合わせる姿、練習や準備を重ねる姿、新しいことに挑戦する姿など、さまざまな場面に、この「六つの光」が輝いていたように思います。

そして、今年のテーマ「想造」にも、そんな幼児・児童・生徒たちの姿がよく表れていました。「こんなことをやってみたい」と想像し、仲間と力を合わせて形に創造する。一人ひとりのアイデアや工夫、挑戦が重なり、今年ならではの六光祭がつくられました。

点字の六つの点は、一つ一つは小さな点ですが、組み合わせることで文字となり、言葉となって人と人をつなぎます。学校も、どこかそれに似ています。一人ひとりの輝き方は違っても、それぞれの力がつながることで、新しいものが生まれます。

六光祭で輝いた「愛・信頼・友情・努力・勇気・平和」の六つの光を、これからの日々の学習や生活、そして次の挑戦へとつなげていってほしいと願っています。

最後になりましたが、御来場いただいた皆様をはじめ、六光祭を支えてくださった保護者、地域、関係団体の皆様に、改めて心より御礼申し上げます。

理療科のこと

主任教諭　野村利己

理療科は、盲学校に設置されている職業課程で、視覚障害のある生徒が職業自立を目指しあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師の国家資格取得にむけて学んでいます。

八王子盲学校の理療科には、高等部保健理療科、専攻科保健理療科、専攻科理療科の３つの課程があり、今年度は総勢６名の生徒が在籍しています。今回は、本校理療科の歴史を簡単に振り返ってみたいと思います。

江戸中期から明治・大正・昭和初期にかけて、八王子市は生糸や絹織物の生産、交通の要衝として栄え、「桑都（そうと）」と呼ばれました。多くの労働者が市内で生活していたこともあり、鍼や按摩の需要も高かったそうです。

市内には多くの治療院があり、そこで視覚障害者が住み込み、按摩の修業をしながら働いていました。当時の視覚障害者を取り巻く生活環境は厳しく、その暮らしは決して楽なものではなかったようです。また多摩地域には、視覚障害者が点字を学んだり、義務教育を受けたりすることのできる学校がありませんでした。そのような背景のもと、関係者の熱意と努力によって、昭和５年に八王子盲学校が誕生しました。

開校当初は、初等部（現在の小学部に相当する６年課程）１学級からスタートしました。初等部といっても、在籍していた生徒の年齢は１５歳くらいから２５歳くらいまでだったようです。

生徒の多くは治療院に住み込み、昼間は盲学校に通って小学校と同様の教育を受けました。学校が終わると再び住み込み先に戻り、今度は笛を吹きながら市街を歩いて顧客を求め、夜遅くまで按摩の仕事をするという生活を送っていたようです。当時、按摩の実技は学校で教わるのではなく、開業している親方（業者）のもとで修業し、一人前になるという徒弟制度が基本でした。このとき使われていた笛は「按摩笛（あんまぶえ）」と呼ばれるもので、男性は男笛（おぶえ）、女性は女笛（めぶえ）を吹きながら市街を歩きました。それぞれに特有の音色と吹き方があったそうです。

昭和６年度には別科１学級が新設されました。別科は、初等部の学習とあわせて按摩の実技を学ぶ２年課程です。当時は現在のような国家試験がなかったため、学校を卒業すると免許が与えられ、すぐに仕事に就いたそうです。この別科の設置が、八王子盲学校における理療教育の始まりとなりました。奇しくも、別科初年度の在籍生徒数は、現在の理療科と同じ６名でした。

昭和７年度には中等部鍼按（しんあん）科が新設されました。中等部鍼按科は、中等普通教育を受けながら鍼・按摩について学ぶ４年課程です。

その後、幾度かの設置課程の変更を経て、昭和５１年度に専攻科理療科、昭和５３年度に本科保健理療科（平成１６年度から高等部保健理療科に改称）が新設されました。さらに、平成２年度には専攻科保健理療科が新設され、現在につながる３つの課程がそろいました。

（参考：「学校要覧」「八王子盲学校開校事情」「創立五十周年記念誌」）